

告示	番号	5	糖尿病
	疾病名	新生児糖尿病	

新生児糖尿病

しんせいじとうによびょう

概念・定義

「新生児」は生後1か月以内を指すが、「新生児糖尿病」は一般に生後6か月未満に発症した糖尿病とされる。自己免疫性のは少なく、多くは遺伝子異常による。生後18か月までに治癒する一過性新生児糖尿病と、以後も持続する永続性新生児糖尿病に分類される。

症状

通常の輸液、通常の栄養法で血糖値が高く、臨床的にインスリンを使用しないと哺乳力障害を呈する、脱水を引き起こす、適切な体重増加などが得られないなどの症状がある。K_{ATP}チャネル遺伝子異常によるもののうちの一部は発達遅滞、てんかんなどの神経症状を伴い、DEND (developmental delay, epilepsy, neonatal diabetes) 症候群と称される。このうちてんかんを伴わないものをiDEND (intermediate DEND) 症候群と呼ぶ。その他の新生児糖尿病でも、それぞれの原因遺伝子に伴う特異な症状を伴うことがある。

治療

新生児期に症状を呈する糖尿病治療の第一選択はインスリン治療である。哺乳回数が多いこと、自覚症状を訴えない事などから血糖管理は容易ではない。頻回の血糖測定が必須である。頻回注射法 (MDI) が行われることもあるが、超速効型インスリンを使用した持続皮下注射療法 (CSII) がしばしば行われる。K_{ATP}チャネル性の新生児糖尿病の90%では経口血糖降下剤であるスルホニル尿素剤が有効でインスリンから離脱できる可能性がある。K_{ATP}チャネル性の新生児糖尿病と診断したら、なるべく早期にスルホニル尿素剤を試みる必要がある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/7_1_4.html